

ハーモニー

本市では、地域の皆さんの協力を得ながら、様々な地域活動における男女共同参画の推進に取り組んでいます。

平成 29 年度は、西浦地区で男女共同参画について考えていただく機会として、“男女ともに参画する組織づくりについて”をテーマに「男女共同参画地域づくり講座」を開催しました。今年度は、さらなる男女共同参画意識の定着と継続的な男女共同参画活動の実現をサポートするため、テーマを変え「防災」に焦点を当てたフォローアップ講座を開催しました。

今回、この 2 年間の西浦地区の取り組みの報告として「ハーモニー特別号」を作成いたしましたので、皆さんにお届けします。今後の西浦地区の地域活動の参考にさせていただければ幸いです。

平成 29 年度 男女共同参画地域づくり講座の概要

静岡県立大学の犬塚 協太 教授を講師にお招きし、全4回の講座を開催しました。講座には、単位自治会の正副会長の方を中心に、男女半数ずつの計 36 人の皆さんにご参加いただきました。

前半の講座では、男女共同参画の基礎知識と自治会組織・活動の現状や課題を把握し、共有するとともに、後半の講座では、各自治会に分かれたグループにおいて課題解決に向けた具体的な取り組みについて話し合い、今後各地区で取り組むための計画を立案しました。



静岡県立大学 犬塚 協太 教授

回数	日時	参加人数	内容
1 回目	平成 29 年 7 月 11 日(火) 19 時～21 時	35 人	・犬塚教授による、男女共同参画に関する基礎講座 ・身近な事柄に対して男女共同参画の視点から見ると「おかしいかもしれない」と思う点について書き出し、話し合い。
2 回目	平成 29 年 8 月 3 日(木) 19 時～21 時	28 人	・自治会組織や活動の現状を把握し、男女共同参画社会実現に向けての課題を探るためのグループワーク
3 回目	平成 29 年 9 月 15 日(金) 19 時～21 時	30 人	・自治会の組織・運営・活動における課題解決のための突破口を見つけ、今後どのような取り組みをしていくかについてのグループワーク
4 回目	平成 30 年 2 月 6 日(火) 19 時～21 時	29 人	・今までの講座の振り返り ・各自治会の今後の取り組みについて計画を立案、発表



各地区での計画案の抜粋

(順不同)

江梨地区

・女性部の中で女性目線の計画を立ててもらおう等して防災訓練に女性の意見を取り入れる。

犬塚教授より

防災は地域の男女共同参画を考えるきっかけとして、とても良いテーマです。これまで男性だけで決めていたことに女性の目線を取り入れることは非常に重要です。

古宇地区

・滞りなく自治会を運営していくためには、女性目線が大切で、役員への女性の登用が肝要と認識しているが、昔からの体制や若い世代への負担増の懸念から結論が出ない。

犬塚教授より

なかなか結論がでないとのことでしたが、世帯数に対して役職数が多すぎるのであるならば、統廃合の検討は必要かもしれません。

平沢地区

・一部委員会等において女性の登用を進めており、今後も地区内の改革を進めていく。
・地域の改革を担当する役員は、2年任期ではなく4年、6年、8年等目標を達成するまでなるべく務める。

犬塚教授より

2年任期では見つかった課題の解決には至らず、物事を変えづらいため4～8年と続けた方がいいという意見でした。

木負地区

・まずは家庭(個人)から男女共同参画に対する理解・意識を深めて、町内、区へと広げていきたい。

犬塚教授より

原点に立った意見だと思います。皆の理解がないと、進めるうちに形骸化してしまう恐れもあります。

立保地区

・区の役員と女性とが意見交換できるような委員会・集まりを設ける。

犬塚教授より

女性は重要な意見を持っています。

河内地区

・作業・行事の際は、女性・子ども達からの意見を聞き、プログラム等を見直し、例年とおりをなくす。
・体育祭、防災訓練等の種目・時間等についても、女性目線の意見を問う。

犬塚教授より

女性だけでなく子どもの意見もきちんと取り入れるのはとても大切です。大人と同じように意見を聞くことで、子ども達は大人扱いされたと感じ、地域のことに関心を持つようになることがわかっています。

久連地区

・役員の成り手がいない状況がすぐそこまで来ており、解決のためには女性の登用が必要。役員の構成、仕事内容、報酬等に係る委員会で女性の意見の集約を図りたい。

犬塚教授より

女性に役を担ってもらうにあたり、組織改革として役を少なくし、そもそもの負担を減らそうということも必要だと思います

足保・久料地区

・女性の活動の中に男性が参加し、女性の意見を聞く。

犬塚教授より

女性の本音を聞くために、男性の中に女性が入るのではなく、男性が女性の中に入って行くというのはいいことだと思います。

平成30年度 男女共同参画地域づくりフォローアップ講座の概要

「防災」をテーマにフォローアップ講座を行いました。単位自治会ごとのグループにわかれ、男女共同参画の視点から見た「防災倉庫の点検」について、犬塚教授のご指導のもと、話し合いを行いました。



犬塚教授より

今後、地域で訓練などをする際は、“男女でわけるといふ発想をしない”ということがポイントになります。「力仕事は男性」「炊き出しは女性」のように男女で役割をわけることなく、全員が色々なことを体験することが大切です。

1回目

(7月18日)

◆地域防災に不可欠な男女共同参画の視点に関するミニ講座

東日本大震災等において防災分野における男女共同参画の必要性が認識され、国・県の防災体制への男女共同参画の視点導入が進んでいることから、同視点が欠けていては地域防災が成り立たなくなっている。防災体制、防災訓練、避難所運営の見直しが必要とお話いただいた。

◆初動体制を想定した防災倉庫の点検(グループワーク)

各自治会の防災倉庫に備え付けられている物資を書き出して現状把握をした上で、不足しているものやあった方がいいものがないか話し合い、認識を共有した。
→おむつ(子ども用・大人用)、ソーラー発電機、LEDライト、衛生用品等が必要等

2回目

(9月12日)

◆避難生活を想定した防災倉庫の点検(グループワーク)

災害発生から必要物資が届くまで数日～1週間程度かかると見込まれる中、物資が届くまでの間の生活必需品はどうするか? 備蓄品として用意しておくべき物資や問題点について各グループで話し合い発表した。

- マウスウォッシュ、耳栓、ウェットティッシュ等が必要。
- 浄水器が壊れていて、飲料水の確保ができない。
- 備蓄品の老朽化や不足があったため、実際に点検してみて良かった。
- 防災倉庫が津波の浸水地域や河川のそばにあり、実際使えないかもしれない。必要品は分散させて備蓄したい。等々

発行: 沼津市 企画部地域自治課 協働推進係

〒410-8601

沼津市御幸町 16-1

TEL:055-934-4807

FAX:055-931-2606

E-mail:kyodo@city.numazu.lg.jp

平成31年3月発行

